令和５年度　学校経営方針

戸田市立新曽小学校
校長　加藤　貴嗣

◇埼玉県の基本理念
　豊かな学びで　未来を拓く埼玉教育
◇戸田市の基本理念
　生き生きと　共に育む教育のまち　戸田　～とだっ子　やり抜く力で　未来に力を～

１　校訓

「あかるく　かしこく　たくましく」

２　学校教育目標

「夢をえがき　計画をたて　行動する　児童の育成」
　→自分がやりたいことを 自分で見つけて 自分でどんどんやっていく
【学校教育目標の達成状況を評価するための児童の姿】
・なりたい自分のイメージをゴールに設定することができる。
・自分のよさや可能性を認識することができる。
・自分で決めたことをやり抜くことができる。
・自分の考えをもつことができる。
・いろいろな人の考えを理解することができる。
・互いの考えを尊重しながら話し合うことができる。
・いろいろな考えを組み合わせて、新しい考えを創ることができる。
・みんなの納得解をあきらめずに創り出すことができる。

３　学校経営方針

　学校で学んだことが、児童の「生きる力」となり、これからの社会がどんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え判断して行動し、一人一人が思い描く幸せを実現できるようにする。
　そのために、学校は、社会とのつながりの中で、自らの人生や社会をよりよく変えていくことができるということを実感できる場である必要がある。
　学校教育は、明るい未来を創っていく児童に、「何のために学ぶのか」という学習の意義を理解させ、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」、好奇心、やり抜く力、自制心などの「非認知能力」を育むことが求められている。
　そこで、新曽小学校全教職員一丸となり、未来を志向した創意ある教育活動に努める。児童の実態を確実に把握し、教育課程を意図的・計画的にマネジメントするとともに、各教科等の本質を捉えた楽しい授業を行うための教材研究に取り組み、真摯に授業改善をくり返すことで、学校教育目標の具現化を目指す。
・児童にあっては「新曽小で学んでよかった」
・保護者にあっては「新曽小に通わせてよかった」
・教職員にあっては「新曽小で勤務ができてよかった」
・地域社会にあっては「新曽小を誇りに思う」
と日々実感でき、学校・保護者・地域が深い「絆」で結ばれた、地域とともにある学校づくりを推進する。

４　めざす学校像・児童像・教師像

（１）めざす学校像

「やる気と優しさが響き合い、地域とともに、
共生社会で活躍できる人材を育成する学校」

①教師と児童、児童相互、教師相互のふれあいを重視した温かな学校
②個性や能力を生かし、粘り強くやり抜く意志と態度を育成する学校
③学びを自己実現や社会の一員としての活動に生かす力を育成する学校
④生活科・みらい学習科を核としたカリキュラム・マネジメントを通して、
　ＳＴＥＡＭ人材を育成する学校
⑤各教科等の本質を捉えた楽しい授業を通して、考える楽しさを味わいながら知識
　・技能の習得と活用を図り、学力を向上する学校
⑥豊かな体験、多様な人々と関わる経験を通して、思いやりや寛容さを養う学校
⑦安全で安心できる教育環境を整備し、児童の危機回避能力を高める学校
⑧学校と家庭、地域の情報が行き交う地域とともにある学校

（２）めざす児童像

「自分がやりたいことを 自分で見つけて自分でどんどんやっていく児童」

①自分のよさや可能性を認識することができる児童
②自分で決めたことをやり抜くことができる児童
③自分の考えをもち、多様な考えを理解することができる児童
④互いの考えを尊重しながら話し合い、新しい考えを創ることができる児童
⑤正解のない問いの納得解を協働してあきらめずに創り出すことができる児童
⑥誰にでも思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすることができる児童
⑦心身ともにたくましい児童
⑧自律的に判断し、責任のある行動をすることができる児童
⑨危険を予測し、自分の命は自分で守ることができる児童

（３）めざす教師像

「教育の成否は教師の力量・情熱、使命感に因る」

①教育に対する情熱と使命感をもつ教師
②未来を予測し、児童に必要な資質・能力を育む教師
③教育のプロとして常に研究と修養に努める教師
④各教科等の本質を捉えた確かな指導力をもつ教師
⑤豊かな人間性を備えた教師
⑥保護者や地域の思いや願いを大切にする教師

５　基本方針

（１）目標や課題を明確にし、創意ある授業づくり、学級づくり、生活づくりに努める。

①学習や生活の基盤づくり

教職員一人一人が学校教育目標や本年度の重点を学年・学級目標、各教科等に位置づけるとともに、児童の実態から児童が生き生きと活動する授業づくり、学年・学級づくり、生活づくりなど「学習や生活の基盤づくり」に努める。

②指導法の工夫・改善

知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して問題解決に必要な思考力、判断力、表現力等を育むため、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に不断に取り組む。特に各教科等における言語活動の充実に努め、各教科等の本質を捉えた楽しい授業と学習意欲を高める指導方法や評価の工夫改善に取り組む。

③創意ある教育課程の編成･実施･評価の工夫

学習指導要領の趣旨を踏まえた教科横断的なカリキュラム・マネジメントによりＳＴＥＡＭ人材を育むため、児童や学校、地域の実態に即した「社会に開かれた教育課程」の適切な編成･実施･評価に努める。全教育活動を通じて意図的・計画的に非認知能力を育成する。

④手をかけ、目をかけ、声をかける、児童に寄り添う指導

児童一人一人の実態を把握し、個々のよりより成長に誠実に向き合い、家庭との連携を密にしながら、個に応じた指導に努める。

（２）教職員の連携・協力を図り、創造的で活力ある学校運営に努める。

①修養

心と体の健康に留意するとともに、「時を守り、場を清め、礼を正す」など教育公務員としての自覚や、教師自身の人間性を高めることに努める。

②協働

組織の一員として「報告、連絡、相談、確認」を密にしながら、それぞれのなすべき分掌に努めるとともに、先任・先輩から後任・後輩へ知恵を継承する。

③創造

学校教育目標達成のため、教職員のアイディアを生かし、従来主義に陥ることなく、１改善を取り入れた新しい方法で取組を行うよう努める。

④効率

より効率的な学校運営を推進するため、４プロジェクトチーム＋ＥＢＰＭ担当を設けるなど校務分掌組織の工夫改善に努め、教職員に「なんでもやってみよう」のチャレンジ意識を持たせる。

（３）研修を充実し、教師として資質や指導力の向上に努める。

①学び合い

教職員一人一人が常に課題をもつとともに、教室や授業を開かれたものにし、相互に学び合い磨き合う実践的な研修に努め、授業改善を推進する。

②学校課題研修

学校の課題や今日的課題等に関する研修計画・実施方法の工夫を図りながら校内研修を充実させ、教師としての資質や指導力の向上に努める。

③個人の研修課題の設定

個人の研修課題(テーマ･内容)を設定し、自ら計画を立てて研修に取り組み指導力の向上に努める。(自己評価シートの「研修」欄を活用)

（４）教育環境の整備・充実・美化とその有効活用に努める。

①美化

校舎内外の施設設備、掲示等の整備と美化に努め、快適な環境づくりに努める。

②安全

学校施設設備や安全組織・安全教育の不断の見直しを行い、安全で安心できる学校づくりに努める。

（５）コミュニティ・スクールによる「地域とともにある学校」づくりを推進する。

①開く

コミュニティ・スクールの趣旨を生かした取り組みを推進し、学校運営協議会で学校の経営方針や教育活動等の情報を具体的に伝えるとともに、熟議を通して学校運営の活性化や教職員の異動に影響されない学校経営の継続化を図る。また、保護者・地域からの言葉に誠実に向き合いながらコミュニケーションを図り、信頼される学校づくりに努める。

②参加

家庭・地域に教育課程を開き、教育活動への参加・協力を得る。「新曽小家庭教育宣言」の取組を通して家庭との連携を図り、基本的な生活習慣や学習習慣の確立に努める。学校・家庭・地域が連携し、共に子供を育てる「共育」の意識をもち、教育活動を展開する。

６　本年度の重点

（１）個別最適な学びと協働的な学びの創造と授業改善

①ＳＴＥＡＭ人材育成のためカリキュラム・マネジメントを推進し、教科横断的な学びや学校間を横断した学びにより、児童の資質・能力の向上を図る。

②主体的・対話的で深い学びや戸田型ＰＢＬ、ＳＴＥＡＭ学習など質の高い授業の実現に向けた授業改善を進める。

③脱正解主義、脱自前主義、脱予定調和の学び、協働的な学び、学習の個性化による「楽しい授業」を通して、学習意欲の向上や学びに向かう力の育成を図る。

④１人１台学習者用端末を活用した個別最適な学びによる「わかる授業」を実現し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

⑤１人１台学習者用端末を活用することで、プリント教材によらない学習活動を工夫し、学習や指導・評価の効率化を図る。

⑥個の習得状況を確実に捉え、基礎的･基本的な学習内容の定着と活用する力をつけるため、個に応じた目標設定と学習指導を実践する。

⑦学習規律の定着を図り、落ち着いて学べる学習環境を整える。

・時間を守る→チャイムで始まり、チャイムで終わる授業で学ぶ権利を保障

・学習のきまりを守る→聞く姿勢、書く姿勢、話す姿勢、読む姿勢

（２）全ての児童が力を発揮できるような誰一人取り残されない学びの保障

①いじめの根絶や不登校児童への対応改善を組織で取り組む。全職員がカウンセリングの手法を身につけた教育相談や心の通う個別指導（子供の願いと保護者の思いを理解した対応）を心がけ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を図る。

②学校不適応の解消のため、ぱれっとルームの活用方法について研究を進める。

③不登校の未然防止のため、欠席児童に対して次の対応をとる。

・１日目は連絡帳や電話にて休みの様子を把握し、子供を気遣う

・２日目は電話等により、病気の回復具合や家庭での様子を把握し、学級の様子や友達が心配していることを伝え子供を気遣う

・３日目は手紙や配布物等を持って家庭訪問し、病気の状況や家庭での様子を直接把握する（３日休んだら迅速に行動）

④不登校の未然防止のため、「新曽小家庭教育宣言」の取組による基本的な生活習慣の形成と学習習慣を確立させる。

・「あいさつと返事」の徹底

・「早ね・早おき・朝ごはん・歯磨き」の推進

・「家庭学習：学年×１０分＋１０分運動」の推進
　　→手帳アプリを活用したプランニングできる力の育成
⑤ルールメイキングなど戸田型ＰＢＬを通して、何を、どのように学ぶのかを考え、実践できる児童の育成を目指す。
⑥特別活動を要としたキャリア教育を通して、児童の自己肯定感の向上を図る。

（３）互いのよさや違いを認め合う人間関係の構築と、安心感のある学級づくり

①セサミストリートカリキュラムや主権者教育、キャリア教育を通し、非認知スキルの育成とともに、資質･能力三つの柱　の一つ「学びに向かう力･人間性等」を育成する。
②個別のニーズを的確に把握し、多層指導モデルＭＩＭの考えを生かした授業のユニバーサルデザイン化とＷＡＶＥＳの活用を推進する。
③心に響く道徳授業と議論する道徳授業の充実を推進する。自己の生き方について考えを深める道徳授業の実践する。全学年による道徳授業公開を行う。
④挨拶の励行による豊かな人間関係づくりを進める。
・あいさつは礼儀　「大きな声で　元気よく」
・あいさつで人間関係づくり　「あいさつで　和を」
・あいさつで安全な地域づくり　「あいさつの　輪を」
⑤清掃指導の充実を図るため、教師も児童とともに清掃する「協働」、教師による清掃の点検をする「見届け」を確実に実　施する。
⑥ルールメイキングの取組を通して、正しい規範意識と自由の両立を意識させるため、規律ある学級づくりを進める。
・生活のきまりを守る
・場に応じたけじめのある言葉づかいを心がける
⑦食物アレルギー教育を通し、多様な特性をもつことの理解と協働性を育成する。

（４）文化･スポーツ･芸術にふれ、児童が夢と感動を描ける機会づくり

①地域の人材・施設の活用(町会、学校応援団、寺院、桜パル、荒川土手等）を進める。
②感動体験の場を設定するため、郷土博物館、市立図書館、キッザニアなどの校外学習やさまざまな体験的活動の充実を図る。
③異年齢、異学年、異校種との交流を行う。
④体育的な活動を充実することで、体を動かすことが好きな児童の育成を図る。

（５）安全できれいな学校づくり

①季節感あふれる掲示、子供の学習活動が見える掲示など、意図的・計画的な掲示活動を推進する。
②緑化活動の充実に取り組み、季節感と潤いのある環境づくりに努める。
③危機対応能力(子供自身が自分の命を守る力)を高めるため、新曽地区小・中学校連携による安全教育の充実を推進する。
④交通安全教室・自転車免許講習会を実施する。
⑤意図的・計画的な避難訓練(防災・防犯)、薬物乱用防止教育等を実施する。
⑥施設設備の定期的な安全点検の実施についてマンネリ化防止の工夫改善を行う。

（６）服務の基本を徹底し、保護者・地域からの信頼を得る

法を守る者は、法に守られる
①法令・法規に基づき、教育公務員としての自覚を高め、公私の区別を厳しく行い、職務専念の義務を果たす。
②出勤簿の捺印、退勤時の施設・文書の保全管理等を徹底する。

③各種会計の適正な管理に努め、外部監査を行う。
④年休届の提出、出張の報告、研修承認願・報告等遺漏なく行う。
⑤風通しのよい人間関係により、教職員不祥事を根絶する。
⑥自分ごととなる研修の積み重ねにより、教職員一人一人の遵法意識を高め、不祥事を根絶する。